

組織方針

激成され行く反動情勢は總ての場面に於いて我々勤勞農民の經濟的、政治的進取を押し進めて行くであらう。

斯る場合に於いて我々は何處を突破されても全体が阻ちに有礙的に活動出来るやうに我々の組織を編成せねばならぬ。ところが在來の組織はこの點充分に取れぬ故に對抗出来るやう編えられてゐなかつた、やゝ々ともすれば一箇所をやられると全体が傷つき、乃至は潰つて行つた。例へば本部が敵に奪はれると各台全体が活動を停止したり、一支部の闘争が有礙的に入集化されなかつたり、或は強壓に當該支部のみが壊れられ動きがトレなくなつたり、等々の非統一の、非有機的な現象が我々の組織内にまゝ起ちかちであつた。かかる現象を克服するためには在來の本部と

支部の組織でなく、本部がやられても一支部が突破されても、各台全体が其の有礙性を失ふことなく直ちに統制復讐されて一支部が全体性と完全に連絡が取られて闘争出来るやうにしなくてはならぬ。

(一) 地區委員會の全体的構成

右のやうな理由に依つて當然半強硬な地區委員會の構成が組織の全体及び未組織に向つて發展具體化されねばならぬ。支部單位の闘争形態は到底に行成の又既階層級に對する攻撃戦略として充分にその能力を發揮することは出来ぬ。支部の闘争は直ちに地區委員會に報告され、地區委員會に於て地區の全体的情勢に應じた戦略戦術を決定されねばならぬ。地區委員長にまさりてこれこそが今後の闘争形態の目標である。専門的、早急的知識が適用される程、敵の統制と規律が崩壊されねばならぬ。闘争を勝利へ結束す